

学校経営推進費 評価報告書（最終）

1. 事業計画の概要

| | |
|--------|--|
| 学校名 | 大阪府立とりかい高等支援学校 |
| 取り組む課題 | 生徒の自立を支える教育の充実 |
| 評価指標 | (1) ICT 機器を活用した「主体的で対話的な深い学び」を軸にした指導力・授業力の向上 (2) 生徒の自己肯定感を高め、自己実現、自立のための力、働き続ける力の向上 (3) 支援学校における児童・生徒、保護者の学校満足度の向上 |
| 計画名 | Fly To The Future ～それぞれの自立のために～ |

2. 事業目標及び本年度の取組み

| | |
|------------------|--|
| 事業目標 | <p><本校の課題></p> <p>本校の生徒たちにとって高校生活の3年間で「生きる力」を育成することは大きな課題である。障がいにより不足している経験を補うために、ICT をより多く活用し、「生きる力」の育成に努めたい。</p> <p>視覚支援や聴覚支援の必要な生徒が多い中、大型テレビなどを活用した授業は本校の教育活動の中心になりつつある。しかし、テレビ台数の不足により、経験を積む機会を逸している現状があり、生徒たちの「生きる力」育成のためにも、自らの考えを伝えることや発表の機会を ICT 活用により増やしていきたい。</p> <p><事業概要></p> <p>電子黒板が各教室に配置された場合は(1)から(3)の目標達成をめざす。</p> <p>(1) 電子黒板、タブレット端末を中心に ICT 機器を効率的に活用し、未知の情報を得ることで受け身の授業から、友だち同士での教え合いや、学びの発表など、自ら学ぶことができることにより知識・技能の定着をはかる。他者を意識した話す力、聞く力の育成をめざす。また、すべての授業で視覚支援、聴覚支援を行うことで分かりやすい授業を実践し、生徒の能動的な学習時間が増える。</p> <p>(2) 教え合い、発表をする→知識・技能の定着→自信がつく→主体的・意欲的に学ぶという正のスパイラルを生み、自己肯定感を高め、就労するための力を身につける。</p> <p>(3) 生徒の満足度だけでなく、生徒の成長を感じることで保護者の満足度の向上につながる。</p> |
| 整備した設備・物品 | <p>普通教室9室、特別教室2室に設置する次の備品を購入した。</p> <p>① 電子黒板機能付きの壁掛け式単焦点プロジェクタ (11台)</p> <p>② インターフェイスボックス (11個)</p> <p>③ プロジェクタスクリーン (11個)</p> <p>④ Apple TV (11台)</p> <p>※ ①の付属品は、壁付け金具（電子黒板設置金具）、電源ケーブル、RGB ケーブル、音声ケーブル、HDMI ケーブル、USB タイプ A ケーブル、同 B ケーブル、RS232C ケーブル。</p> |
| 取組みの 主担・実施者 | <p>FT2F (FLY TO THE Future) チーム (ICT 機器を活用した授業力向上チーム)</p> <p>構成メンバー 教頭、首席、各教科代表、教務部情報係</p> |
| 学校経営計画の 中期的目標 | <p>1. 1人1台端末の効果的な活用と ICT を活用した授業等の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板と1人1台端末を活用した授業を全教員が実施する ・理科、家庭の授業で紙プリントを使用せず、1人1台端末を活用して個々の生徒に資料を配付する |

| | |
|---------------------------------|---|
| | <p>2. 電子黒板を活用した教材研究の推奨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間2回予定されている研究授業週間に実施する授業は電子黒板を活用する ・公開授業でも電子黒板を積極的に活用する授業を実施する |
| <p>事業目標</p> | <p><本校の課題></p> <p>本校の生徒たちにとって高校生活の3年間で「生きる力」を育成することは大きな課題である。障がいにより不足している経験を補うために、ICTをより多く活用し、「生きる力」の育成に努めたい。</p> <p>視覚支援や聴覚支援の必要な生徒が多い中、大型テレビなどを活用した授業は本校の教育活動の中心になりつつある。しかし、テレビ台数の不足により、経験を積む機会を逸している現状があり、生徒たちの「生きる力」育成のためにも、自らの考えを伝えることや発表の機会をICT活用により増やしていきたい。</p> <p><事業概要></p> <p>電子黒板が各教室に配置された場合は(1)から(3)の目標達成をめざす。</p> <p>(1) 電子黒板、タブレット端末を中心にICT機器を効率的に活用し、未知の情報を得ることで受け身の授業から、友だち同士での教え合いや、学びの発表など、自ら学ぶことができることにより知識・技能の定着をはかる。他者を意識した話す力、聞く力の育成をめざす。また、すべての授業で視覚支援、聴覚支援を行うことで分かりやすい授業を実践し、生徒の能動的な学習時間が増える。</p> <p>(2) 教え合い、発表をする→知識・技能の定着→自信がつく→主体的・意欲的に学ぶという正のスパイラルを生み、自己肯定感を高め、就労するための力を身につける。</p> <p>(3) 生徒の満足度だけでなく、生徒の成長を感じることで保護者の満足度の向上につながる。</p> |
| <p>整備した設備・物品</p> | <p>普通教室9室、特別教室2室に設置する次の備品を購入した。</p> <p>① 電子黒板機能付きの壁掛け式単焦点プロジェクタ (11台)</p> <p>② インターフェイスボックス (11個)</p> <p>③ プロジェクタスクリーン (11個)</p> <p>④ Apple TV (11台)</p> <p>※ ①の付属品は、壁付け金具(電子黒板設置金具)、電源ケーブル、RGBケーブル、音声ケーブル、HDMIケーブル、USBタイプAケーブル、同Bケーブル、RS232Cケーブル。</p> |
| <p>取組みの 主担・実施者</p> | <p>FT2F (FLY TO THE Future) チーム (ICT機器を活用した授業力向上チーム)</p> <p>構成メンバー 教頭、首席、各教科代表、教務部情報係</p> |
| <p>本年度の 取組内容</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員向け機器利用等研修、FT2Fチームによる活用調査、理解度参加度の分析と情報共有(4月) ・ICT機器を活用した授業公開、研究協議(7,12月) ・生徒への授業アンケート、FT2Fチームによる生徒教員ICT機器の活用、理解度満足度調査(7,12,3月) ・FT2Fチームによる活用調査、理解度参加度の分析と情報共有(8,1月) ・各教科で3年間のICT機器の活用について検証及びまとめ(9~12月) ・FT2Fチームによる3年間の検証と取組みを冊子、Webページなど外部へ公開(1~3月) |
| <p>成果の検証方法 と評価指標</p> | <p>(1) 学校教育自己診断(生徒)の「授業の工夫」「授業が分かりやすい」の項目の肯定率を100%とする。授業のICT機器を用いた公開授業(8名)を行い、ICT機器を活用する教員の割合を85%とする。</p> <p>(2) FT2Fチームの調査の「自己肯定感を高めた」、「自己実現、自立のための力を持った」、「働き続ける力を持った」の項目の肯定率を95%以上にする。</p> <p>(3) 生徒、保護者の学校満足度の肯定率を100%とする。</p> |

| | |
|--|--|
| <p style="text-align: center;">自己評価</p> | <p>(1) 学校教育自己診断(生徒)の「授業の工夫」に関する項目の肯定率は91.2%、「授業がわかりやすい」の項目では肯定率は、92.3%と目標とした90%を超える数値となった。100%は非常に高い目標であったため、到達はできなかったが、わずかではあるが、昨年度よりも数値が伸びたのは、電子黒板の導入後、1人1台端末との効果的な活用を推進したことが理由の一つであると考え。今年度も継続して、公開授業週間でも、電子黒板を利用した授業計画を立てることを推奨した。ICT機器を活用している教員は100%を達成している。……………(○)</p> <p>(2) 電子黒板が設置されてから研修を実施し、授業で活用するように教員に促した。組織的なアンケート結果では、目標の95%以上とはならなかったが、90.5%と、昨年度と同様に高い数値である。本校教員の電子黒板を利用するための技能は高まっており、一斉で行う基本的な研修の必要性は現在のところないと思われる。さらに自己肯定感を高め、働き続ける力等を育成するには、教科・領域ごとで効果的な活用のための工夫が求められている。……………(○)</p> <p>(3) 学校教育自己診断では、生徒については授業に関する項目の平均が、80%を超える肯定率となっている。保護者については、授業に関する質問事項で、肯定的な回答が平均では80%を超えたが、1人1台端末についての項目では76.5%であった。1人1台端末が導入されてから、ICT機器を活用した学習活動に保護者の関心が益々高まっていると思われ、学習に関する情報を保護者にきめ細かく提供する必要性を感じている。「子どもは授業がわかりやすいと言っている」が84.7%の肯定率であることから、本校のICT機器を活用した「わかりやすい授業」の推進には一定の理解が示されていると考え、また、進路に関する項目の平均は、生徒89.4%、保護者92.9%と高い肯定率を維持することができているが、学校満足度の肯定率100%をめざし、さらにICT機器を効果的に活用した授業の改善が必要と考える。……………(△)</p> |
| <p style="text-align: center;">事業のまとめ</p> | <p>電子黒板を導入した初年度の「主体的で対話的な深い学び」を軸に授業改善に努めるという目標は、学校教育自己診断の結果から、「達成した」と考える。教科・領域の特性により、ICT機器を活用した授業の回数にはばらつきがあるものの、教員は積極的に教材研究にも電子黒板を活用している。授業では、自らの考えを伝える場面や学習の成果を発表する機会に、電子黒板の機能が大いに役立っており、従来のプリント配付から、iPadでの資料参照、記録、ミラーリング機能による発表へと授業形態を変えていこうとする教科も出てきた。</p> <p>以上のような授業形態の変化から、生徒同士の対話の機会が増え、授業に主体的に取り組む様子が認められる。生徒同士が教え合う機会も増えたことで、自信を持つことにもつながり、進路指導において自分の思いを適切に伝える力もついている。</p> <p>本校では、生徒の実態に合わせた「わかりやすい授業」を進めていく中で、導入以来、電子黒板は不可欠なツールとなっている。</p> |